

## 事業のポイント

- 経済地理学会と地域創生センターの共催で公開シンポジウムを開催し、専門研究者と地域活動家が活性化への取り組みについて意見交換をおこなう。
- 上勝町で開催された全国棚田サミットの連携企画として、公開講座「上勝町の棚田における価値、保全と活用」を開催し、地域の景観や文化的価値について情報発信をおこなう。

## 事業代表者・連絡先

豊田 哲也 (大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1  
tel / fax: 088-656-7154  
e-mail: toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp



公開シンポジウムでの基調講演

## 1. 事業の目的

大学が果たすべき役割として、アカデミックな研究と地域での活性化取り組みを結びつけ、それぞれの成果を共有しつつ両者の展開を図ることが求められている。徳島県の上勝町における「いんどり」事業は知名度が高いが、ほかにもゴミゼロ運動や棚田景観の保全活動など注目すべき活動は多い。本事業の目的は、全国的な学会を招致し、こうした地域資源を活かした取り組みについて情報発信をおこなうとともに、専門研究者との意見交換を通じて中山間地域活性化の方策を考えることにある。

## 2. 事業の取組状況

平成23年10月23日に経済地理学会と共催で、公開シンポジウム「地域への関わり新たな戦略と課題—死せるものから活かせるものへの産業、組織、担い手の再構築のために—」を開催した。笠松和市・上

勝町長による基調講演に続き、研究者と市民活動家計9名が地域活性化取り組み事例の報告や研究コメントをおこなった。また、上勝町で開催された全国棚田サミットに向け、同町の歴史・文化資源に関する研究成果を紹介するため、9月17日に公開講座「上勝町の棚田における価値、保全と活用」を開催した。

## 3. 事業実施による成果と今後の展開

公開シンポジウムには一般市民や学生を含め100名以上の参加者があり、徳島大学の地域連携事業について広くアピールするとともに、地域経済問題の専門研究者からは今後の取り組みにつながる多くの提案を得た。



# 子ども虐待防止月間：「高校生に対する性の問題とリンクさせた子ども虐待予防」のワークショップ—「子どもの虐待防止と十代の性」公開ワークショップ—

## 事業のポイント

- 「望まない妊娠」「若年妊娠・出産」は子ども虐待のリスク因子。
- 次世代を担う高校生を対象の子ども虐待防止の啓発。

## 事業代表者・連絡先

二宮 恒夫 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授)  
〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15  
tel / fax: 088-633-9030  
e-mail: ninomiya@medsci.tokushima-u.ac.jp

## 1. 事業の目的

子育て困難から虐待に至る要因として、「望まない妊娠」や「若年妊娠・出産」がある。そこで、高校生を対象に、「望まない妊娠」等を避け、子ども虐待予防啓発のためのワークショップを開催する。

## 2. 事業の取組状況

### (1) 公開ワークショップの開催

平成23年11月6日(日)、日垂メディカルホールで、子ども虐待防止月間：「子どもの虐待防止と十代の性」公開ワークショップを行った。講演①「子どもの虐待と十代の性」(森脇智秋、徳島文理大学助産学専攻准教授)、講演②「望まない妊娠を避ける」(芝崎 恵、高知県立大学看護学部助教)。

### (2) 高校生対象の啓発資料の作成

講演内容や高校生との討議の結果を参考に、「子ども虐待」をなくそう—Child Abuse & 性：「子ども虐

待による死」と「望まない妊娠」の密な関係—のリーフレットを作成し県下の高校生に配布した。

## 3. 事業実施による成果と今後の展開

性教育に子ども虐待防止の視点を取り入れたことは、新しい試みである。性教育に性感染症の予防だけでなく、次世代を担う若い世代を対象に、子ども虐待の予防を含め広く啓発する。



## 吉野川市美郷地区の石積み景観を舞台とした 中山間集落風景の持続的維持方策を考えるワークショップおよびその公開事業

### 事業のポイント

- 「中山間地の風景の維持方策を一次産業や景観等多様な視点から考え、空間維持の担い手である地元の方々らと情報を共有する。
- 学生や景観を専門とする研究者らとのワークショップをおこない、その成果をまとめたリーフレットを作成し、ひろく配布する。

### 事業代表者・連絡先

真田 純子 (大学院ソシオテクノサイエンス研究部・助教)  
〒770-8502 徳島市南常三島町2-1  
tel: 088-656-7578 fax: 088-656-7579  
e-mail: sanajun@ce.tokushima-u.ac.jp

### 1. 事業の目的

吉野川市美郷地区は、石積みの段畑が観光資源となっているが、こうした農業と密接に結びついた中山間集落風景の維持方策については、真剣に考えられていない。本事業ではこうした風景の維持方策を一次産業や景観等多様な視点から考え、空間維持の担い手である地元の方々らと情報を共有することを目的とする。

### 2. 事業の取組状況

9月8日～10日にかけて、吉野川市美郷でワークショップを行った。全国の4大学から9人の学生が参加し、石積み景観や道具に関する調査を行った。

ワークショップ後、石積みに使用する道具について改めてスケッチを行い、使用方法や道具の特徴などの説明を加えたパンフレットを印刷し、それを石積み

見学者の目にとまる美郷物産館等に置き、広く配布した。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

ワークショップの成果をリーフレットとして地域住民や観光客に周知することで、集落風景の持続的維持方策についての理解が広がることが期待される。道具に関する調査資料は、今後の技術の継承においても大いに役立つ情報になると考えられる。

## 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部市民公開講座

### 事業のポイント

- 「健康のひけつは“口”にあり」をテーマに、健康な生活を過ごすことを目的に口腔ケア、加齢・疾患と唾液腺機能等、専門的な立場から分かりやすく解説することにより、健康で快適な生活を過ごすための口腔の健康における重要性を一般市民に周知することができる。

### 事業代表者・連絡先

東 雅之 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授)  
〒770-8504 徳島市蔵本町3丁目18-15  
tel: 088-633-7351 fax: 088-633-7388  
e-mail: azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp

### 1. 事業の目的

本事業は、人にとって生涯一番の楽しみである「食べる」ことに関して、加齢や病気によって食べ物を正しく噛めることが出来なくなった時、どのようなことに気をつけたらいいのかについて解説することを目的とした。

### 2. 事業の取組状況

平成23年11月12日(土)徳島大学長井記念ホールにおいて「市民公開講座」を開催した。本講座では、すべての人が健康的でQOLを維持した生活ができることを目的に講演が行われ、約90名の参加があった。口腔分子病態学石丸直澄による「口腔疾患と唾液」、第一補綴科友竹偉則による「口の働き—正しく食道へ—」、口腔内科桃田幸弘の「徳島大学病院における口腔ケアの取り組み—なぜ口腔ケアが必要なのか—」、口腔保健福祉学分野羽田勝の「老人施設に

おける口腔ケア」と題して、それぞれの専門的な立場からわかりやすく解説した。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

医療関係者以外の市民の参加が得られ、身近な問題として口腔の役割などの重要性を広く伝えることができた。今後の生活において、QOLの向上に貢献することが可能になると期待される。



### 事業のポイント

- 四国の公衆衛生関係者が一堂に会する四国公衆衛生学会のシンポジウムのテーマを「高次脳機能障害」とする。
- 「高次脳機能障害」に対する国、県、大学等の取り組みの現状を示し、関係者の理解の推進と今後の課題の共有を図る。

### 事業代表者・連絡先

井本 逸勢（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授）  
〒770-850 徳島市蔵本町3-18-15  
tel: 088-633-7075 fax: 088-633-7453  
e-mail: issehgen@basic.med.tokushima-u.ac.jp

### 1. 事業の目的

高次脳機能障害者を取り巻く現状と課題を公衆衛生関係者に周知し、今後の支援体制のためのあるべき方向性を示す。

### 2. 事業の取組状況

平成24年2月3日、第57回四国公衆衛生学会総会においてシンポジウム「高次脳機能障害者に対する取り組みの現状と課題 -徳島県を例に-」を開催した。シンポジウムは県郷土文化会館にて行われ、保健所長、保健師、栄養士、大学の公衆衛生関係者等合わせて約170名が参加した（写真1・2）。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

高次脳機能障害者の支援に積極的に取り組まれているシンポジストの講演・討論により、「高次脳機能障害」の定義と状態の基礎的知識の向上にはじまり、

その支援と課題について参加者が共有することとなった。とくに発症から地域・社会生活、就労に至るまでの連続的な支援のためには医療・福祉の連携、地域を含めたネットワークが大切であること、また、それらを実施するための資金が必要であることが明らかになった。今後一層、知識の普及と課題認識がすすみ、社会的な取り組みへの発展が期待される。



(写真1)



(写真2)

### 事業のポイント

- 地域市民参加型の研究会による学びの場・学びの拠点作り。
- 地域文化の継承と啓蒙の連携作り。

### 事業代表者・連絡先

宮崎 隆義（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授）  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel / fax: 088-656-7131  
e-mail: miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp

### 1. 事業の目的

地域市民参加型の研究会として、モラエスの継承と啓蒙を図る。

### 2. 事業の取組状況

基本的な活動として定例で読書会を開き、教員側の研究と市民側の情報提供を交えながら、モラエスの著作を読んでいる。また、学内で講演会を開き学生への啓蒙を図った。他に、市民向けの講演会を行うことを目指していたが実現には至らず、代替として、モラエスゆかりの神戸三宮周辺で調査資料見学ツアーを行った。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

例会については、徳島新聞でも紹介されており参加者が増えつつある。学びの意欲のある市民は多く、教員による講座提供や講演会とは少し性格の違う、

教員と市民とが共に学びつつ地元の文化的なものを継承してゆくこうした研究会方式によっても、開かれた大学として、地域への貢献や地域との連携が可能ではと思われる。また、モラエスを対象とすることにより、国際理解や異文化理解の教育が行えるばかりでなく、本学が国際的な研究拠点となって、国際的な学術交流の展開も期待できる。



# 大学生の活力を高める自然体験型教育および その評価に関するシンポジウム事業

## 事業のポイント

- 地域（上勝）と連携して5年間行ってきた、自然体験型教育プログラムを「大学生の活力を高める」といった観点で評価した。
- 評価者に、自然学校主催者、上勝千年の森ふれあい館管理者、環境教育の指導者などを招いた。
- 低利用地域資源の竹を海辺で使い、アサリを育てる、アサリで浄化といった画期的なプログラムを学生と共に開発したこと。

## 事業代表者・連絡先

上月 康則（大学院ソシオテクノサイエンス研究部・教授）  
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学大学院  
tel / fax: 088-656-7335  
e-mail: kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp

### 1. 事業の目的

自然体験活動が体験者の活力を高めることは国内外でもよく知られている。申請者らは5年間にわたり、上勝町と連携し、教育プログラム開発とそれを実施してきた。本事業の目的は、これらのプログラムを評価し、新たなプログラム開発を行うことである（写真2）。

### 2. 事業の取組状況

#### （1）自然体験型教育シンポジウム

特に佐藤初雄氏（自然体験活動推進協議会代表理事）からは、自然学校の全国的な状況を踏まえ、地域活性化への関与が参加者の活力を高めるといった実績が紹介され、この点、本講義の取り組みは高く評価された。

#### （2）新しいプログラム開発WS

平井氏（NPO）、渡辺氏（阿南高専）を招き、学生らと共に低利用地域資源の竹を用いた海辺の体験学習プログラムを開発した。渡辺氏にはプログラム構成を、平井氏にはリスク管理について指導いただいた。

### 3. 事業実施による成果と今後の展開

申請者らの取り組みは全国水準と評価されたがリスク管理に課題があった。それを反映させた新たなプログラムを開発しており、今後、学生の活力UPと地域問題の解決を考慮しつつ、実践する。



（写真1）佐藤氏による自然体験活動の現状と評価



（写真2）竹を使った里山の環境での自然体験活動（巣箱作り）

